

【注意】「転移性腫瘍と診断された腫瘍」と「病理組織学的検査にて再発と診断された腫瘍」は、下記の多重がんルールを適用しない。  
 詳細は、「固形腫瘍における多重がんルール適用対象判定資料」を参照のこと (<https://ncc.ctr-info.com/text/>)。

<肺>

C340-C343, C348, C349(悪性リンパ腫・白血病 M9590-M9992 と カポジ肉腫 M9140 は対象外)

腫瘍数	ルール	項目内容	決定	備考				
不明	M1	単一腫瘍か複数腫瘍かが不明	⇒ はい	<b>単発</b> 注1: すべての情報を使用しても不明な場合に適用 注2: 情報が乏しい症例の例: ・死亡診断書情報のみの症例 ・情報が病理診断報告書のみの症例。例えば、生検や切除の病理報告書はあるが、それが単一腫瘍のものか複数腫瘍のものかが特定できない例や、外来で生検を行いその後の情報が無い例。				
	↓いいえ							
単一	M2	単一腫瘍	⇒ はい	<b>単発</b> 注1: 単一腫瘍はつねに単発として扱う 注2: 隣接部位・臓器に拡がった腫瘍を含む 注3: 上皮内癌と浸潤癌の混在症例を含む 注4: 複数の組織型を有する症例を含む				
	↓いいえ							
複数	M3	ICD-O局在コードがC34_である腫瘍と、それとは非連続な局在コードの2桁目及び/または3桁目 (CXXx) がC34_と異なる腫瘍とが存在する	⇒ はい	<b>多重</b> 注: 局在コードの左から2桁目または3桁目が異なる場合、原発部位が異なると扱う				
	↓いいえ							
	M4	1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断後、満3年の間臨床的に再発を認めず (clinically disease-free)、その後新たな腫瘍が発生した			⇒ はい	<b>多重</b> 注1: 臨床的に再発を認めない、とは、以下を含む検査にて同側肺に3年間再発の証拠がないことをいう ・CT・MRI等の画像検査 ・腫瘍マーカー 注2: 1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断日から3年以内に再発した場合、次の腫瘍の診断までの間隔の計算はリセットされ、その再発腫瘍が診断された時点からの計算となる。 注3: 診療記録上再発に関する記載がない、もしくは不明な場合、腫瘍の診断日が当該間隔を計算する基準日となる。 注4: 医師は、対象患者は過去に肺癌に罹患したという意味で、後にできた腫瘍に対して「再発」と記載することがあるが、医師の記載をそのまま採用せず、本ルールに従うこと。		
	↓いいえ							
	M5	少なくとも1つの腫瘍が小細胞癌 (8041) またはその亜型/変異型で、その他の腫瘍が非小細胞癌 (8046) またはその亜型/変異型である					⇒ はい	<b>多重</b> 注1: 小細胞癌と非小細胞癌は肺癌の組織型を大きく2つに分類したものである。「同義語と定義の表」において、小細胞癌 (小細胞神経内分泌癌) 以外はすべて非小細胞癌に相当する ・小細胞癌とその亜型/変異型については「同義語と定義の表」を参照すること ・小細胞/神経内分泌癌以外、すべて非小細胞肺癌に分類される。 注2: それらの腫瘍が両側肺でも一側肺でも、本ルールに該当すれば多重として登録する
	↓いいえ							
	M6	同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」の右列において、異なる亜型/変異型である						
↓いいえ								
M7	同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍が同側肺にあり、それらの組織型が、「同義語と定義の表」において同じ太枠に所属している	⇒ はい	<b>単発</b> 注1: 腫瘍は同側肺である必要がある。 注2: これら腫瘍の性状コードは同じである必要がある。もし一つの腫瘍が上皮内癌で、他の腫瘍が浸潤癌であった場合、本ルールを適応せずM8以降に進む 注3: 「同じ太枠」とは、以下のいずれかを指す ・すべての腫瘍が同じ組織型 (4桁の同じICD形態コード) ・1つの腫瘍の組織型が表中左列に該当し、他の腫瘍の組織型がその同義語 (中列) に該当 ・1つの腫瘍の組織型がいずれかのNOS (左列あるいは中列) に該当し、他の腫瘍がそのNOSの亜型/変異型 (同じ太枠内の右列) に該当					
↓いいえ								

M8	同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」において、異なる太枠に記載されている
----	--

⇒  
はい

多重	注: 腫瘍の組織型が互いに異なる太枠に属する場合、それらは明確に異なる組織型である
----	---

↓いいえ

M9	同時性に複数の腫瘍が存在し、以下のいずれかに該当する ・両側肺に存在 ・同側肺に存在 ・一方の肺に一つの腫瘍があり、対側肺に複数の腫瘍が存在 ≪注記≫ また、上記に加え、腫瘍の組織型が備考欄に記載された注1, 2に該当する
----	--

⇒  
はい

単発	注1: 本ルールに該当する腫瘍の組合せとして、以下がある ・上皮内癌と浸潤癌 ・いずれかのNOSとその亜型/変異型 (「同義語と定義の表」を参照) 注2: NOSとその亜型/変異型の組合せとして、以下がある ・Adenocarcinoma 8140 とその亜型/変異型 ・Mucinous adenocarcinoma とその亜型/変異型 ・Non-small cell carcinoma 8046 とその亜型/変異型 ・Sarcoma 8800 とその亜型/変異型 ・Small cell neuroendocrine tumors/NET 8041 とその亜型/変異型 ・Squamous cell carcinoma 8070 とその亜型/変異型 注3: 以下のような状況にて腫瘍の組織型が異なると証明されたときのみ、多重癌と判断する。 ・複数の腫瘍の組織型が、生検または切除にて異なることが証明された ・主治医または腫瘍医、呼吸器科医が、複数の腫瘍が互いに異なる組織型と明白に判断した ("おそらく", などの不明確な用語を用いている場合は、適用しない。)
----	---

↓いいえ

M10	浸潤癌の診断後、その浸潤癌と同側の肺に上皮内癌が診断された ≪注記≫ この場合、浸潤癌を登録する
-----	--

⇒  
はい

単発	注1: 本ルールは階層的であり、M1~M9が該当しない場合に適用すること 注2: 腫瘍はいずれかのNOSとそのNOSの亜型/変異型であってもよい (同義語と定義の表を参照のこと)
----	--

↓いいえ

M11	両側肺それぞれに1個ずつの腫瘍が存在する
-----	----------------------

⇒  
はい

多重	注1: 一方からの転移が証明された場合は除く (下記) ・両方の腫瘍を比較して病理学的に一方からの転移と示された ・主治医または腫瘍医、呼吸器科医が、一方からの転移と明白に判断した ("おそらく", などの不明確な用語を用いている場合、本ルールは適用できない) 注2: 肺転移は通常多発腫瘍を形成する。両側肺に1個ずつ存在する腫瘍は通常両者とも原発腫瘍である。 注3: "両側"は単発と同義ではない。単に両側の肺に腫瘍が存在することを示す (訳注: 両側、という語句を用いていることがM11に該当することを意味する訳ではない)。 注4: このルールは長期にわたる疫学研究の結果に基づいている。
----	---

↓いいえ

M12	上皮内癌の診断から60日以内に同側肺の浸潤癌が診断された (この場合、浸潤癌を登録する)
-----	--

⇒  
はい

単発	注1: M3~M11が適用される場合、このルールは適用しない。 注2: このルールでは、上皮内癌と浸潤癌が同時に診断された場合を含む。 注3: 組織型がNOSとその亜型の場合も適用できる。 注4: 登録の際は、組織コードを/2から/3に変更する。 注5: 診断日は変更しない。 注6: 医師は、両腫瘍に対して、最適な治療法を選択や疫学研究上の理由から、病期分類や多重癌との判定を行うことがあるが、本ルールに該当した場合は単発として扱う
----	--

↓いいえ

M13	上皮内癌診断後60日を超えた間隔で同側肺の浸潤癌が診断された
-----	--------------------------------

⇒  
はい

多重	注1: M3~M12が適用される場合、このルールは適用しない 注2: 浸潤癌と上皮内癌の両方を登録する 注3: 臨床医が再発または悪化と記録していても、多重がんとして登録する 注4: このルールは長期にわたる疫学研究の結果に基づいている。
----	--

↓いいえ

M14	上記のいずれも当てはまらない
-----	----------------

⇒  
はい

単発	注: 上位のルールがすべて適用できない場合のみ、適用する
----	------------------------------

同義語と定義 肺 対象局在コードC340-C343, C348, C349

《左列》 特異的 または NOSの組織型		《中列》 左列の同義語	《右列》 左列または中列の亜型/変異型
コード	用語	用語	用語
8140	Adenocarcinoma 8140	Adenocarcinoma NOS Adenocarcinoma in situ Adenocarcinoma invasive	Acinar adenocarcinoma※ Adenoid cystic/adenocystic carcinoma Colloid adenocarcinoma Fetal adenocarcinoma Lepidic adenocarcinoma/adenocarcinoma, lepidic predominant Mucinous carcinoma/adenocarcinoma in situ※ / Invasive mucinous carcinoma/adenocarcinoma※ / Minimally invasive mucinous carcinoma/adenocarcinoma※ / Microinvasive mucinous carcinoma/adenocarcinoma※ / Preinvasive mucinous carcinoma/adenocarcinoma※ Micropapillary adenocarcinoma/carcinoma ※ Mixed invasive mucinous and non-mucinous adenocarcinoma※ Non-mucinous adenocarcinoma in situ※ / Microinvasive non-mucinous adenocarcinoma※ / Minimally invasive non-mucinous adenocarcinoma※ / Preinvasive non-mucinous adenocarcinoma※ 上記※印がついている組織型については、「肺」のときのみ左列または中列の亜型/変異型とみなす Papillary adenocarcinoma Pulmonary intestinal-type adenocarcinoma/enteric adenocarcinoma Solid adenocarcinoma
8560	Adenosquamous carcinoma		
8562	Epithelial-myoepithelial carcinoma	Adenomyoepithelioma Epimyoeplithelial carcinoma Epithelial-myoepithelial tumor of unproven malignant potential Malignant mixed tumor comprising epithelial and myoepithelial cells Pneumocytic adenomyoepithelioma	
9133	Epithelioid hemangioepithelioma		
8031	Giant cell carcinoma		
8580/3	Intrapulmonary thymoma (arising within lung)		
8012	Large cell carcinoma	Large cell anaplastic carcinoma Large cell carcinoma NOS Large cell carcinoma with no additional stains Large cell carcinoma with null immunohistochemical features Large cell carcinoma with unclear immunohistochemical features Large cell undifferentiated carcinoma	
8082	Lymphoepithelioma-like carcinoma		
8720	Melanoma		
8430	Mucoepidermoid carcinoma	Mucoepidermoid tumor	
8982	Myoepithelial carcinoma		
8046	Non-small cell carcinoma		以下の組織型以外すべてがnon-small cell carcinomaの亜型/変異型に該当する; Atypical carcinoid Combined large cell neuroendocrine carcinoma Combined small cell carcinoma Large cell neuroendocrine carcinoma Small cell carcinoma/neuroendocrine tumors (NET Tumors) Typical carcinoid
8023/3*	NUT carcinoma NUT: nuclear protein in tests NUT/M1 gene rearrangement	Aggressive t(15:19) positive carcinoma BET-rearranged carcinoma Carcinoma with t(15:19) translocation Midline carcinoma of children and young adults with NUT rearrangement Midline lethal carcinoma NUT midline carcinoma	
8714/3*	PEComa malignant		
8022	Pleomorphic carcinoma		
8800/3	Sarcoma NOS		Biphasic synovial sarcoma Epithelioid cell synovial sarcoma Pulmonary artery intimal sarcoma/low-grade malignant myxoid endobronchial tumor Pulmonary myxoid sarcoma with EWSR1 -CREB1 translocation Spindle cell synovial sarcoma Synovial sarcoma
8041	Small cell carcinoma/neuroendocrine tumors (NET Tumors)	Reserve cell carcinoma Round cell carcinoma SCLC Small cell carcinoma NOS Small cell neuroendocrine carcinoma	Atypical carcinoid Combined small cell carcinoma Large cell neuroendocrine carcinoma/combined large cell neuroendocrine carcinoma Typical carcinoid
8032	Spindle cell carcinoma		
8070	Squamous cell carcinoma	Epidermoid carcinoma Epidermoid carcinoma NOS Squamous carcinoma Squamous cell carcinoma NOS Squamous cell epithelioma Squamous cell carcinoma in situ	Basaloid carcinoma/basaloid squamous cell carcinoma Keratinizing squamous cell carcinoma Non-keratinizing carcinoma

《注》\*のついたコードは院内がん登録においては未採用のため、「用語」を参照すること

《注》"/…(スラッシュ、組織型名)"と記載されている組織型は、多重がんルールにおいて、直前に記載されている組織型と同じ亜型/変異型として扱う。

ただし、これらの形態コードは同じことも異なることもあるので、注意すること。